

寄付講座開講一覧

科目区分	科目名	単位数	寄附組織名
経済学科/地域環境政策学科専門科目	沖縄の経済事情Ⅰ	2	沖縄県内各種金融機関
地域環境政策学科専門科目	政策金融論	2	沖縄振興開発金融公庫
産業情報学科専門科目	ハイブリッド型人材育成特別講義	2	株式会社 FROGS/Ryukyu frogs
産業情報学科専門科目	沖縄の航空事業と地域振興	2	日本トランスオーシャン航空株式会社
社会文化学科専門科目	沖縄ジャーナリズム論	2	沖縄タイムス社

※授業科目の目的や具体的な内容等は、シラバスで参照できます。

科目名をクリックするとその科目のシラバスのページまで移動する事ができます。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の経済事情 I	後期	水 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	_沖縄の経済事情 I 教	1 年	yando@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 沖縄県内の金融業界に関する業界研究・業界分析。	メッセージ 【実務経験】金融系企業14社の社員が、勤務経験に基づき自社の特徴・具体的業務内容・業界事情・自身の職歴等について解説する。 金融業界に興味がある学生・就職希望の学生にお勧めします。 履修登録の対象は、「全学部1～3年生」。ただし定員超過の場合は経済学部3年生・2年生を優先する。
	到達目標 金融業界における業務の多様性を理解する。金融系企業の特徴を理解した上で、多数の企業に積極的に就職活動を行う。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
		回	テーマ
		1	ガイダンス・金融業界の基礎知識
		2	銀行1
		3	信金
		4	損害保険会社1
		5	銀行2
		6	銀行系研究所
		7	証券会社
		8	日本銀行
		9	銀行3・中間レポート提出
		10	保証会社
		11	損害保険会社2
		12	リース会社
		13	銀行4
		14	損害保険会社3
		15	銀行系カード会社
		16	期末レポート提出
	テキスト・参考文献・資料など 毎回資料を配布する。テキストなし。		時間外学習の内容 基礎知識を理解する 新聞等から学ぶ。客として会社観察 新聞等から学ぶ。客として会社観察 新聞等から学ぶ。客として会社観察 新聞等から学ぶ。客として会社観察 新聞等から学ぶ。客として会社観察 新聞等から学ぶ。客として会社観察 新聞等から学ぶ。客として会社観察 新聞等から学ぶ。客として会社観察 新聞等から学ぶ。客として会社観察 新聞等から学ぶ。客として会社観察 新聞等から学ぶ。客として会社観察 新聞等から学ぶ。客として会社観察 新聞等から学ぶ。客として会社観察 新聞等から学ぶ。客として会社観察 新聞等から学ぶ。客として会社観察
	学びの手立て 社会人講師による貴重な講義であることを理解し、真剣に取り組む、記録すること。 資料や記録は大切に保存し、就職活動時に役立ててほしい。 毎回、小レポートを記述し提出すること。		
	評価 平常点20%、提出物(小レポート、中間レポート、期末レポート)80%。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「金融論Ⅰ・Ⅱ」「金融投資Ⅰ・Ⅱ」「沖縄の経済事情Ⅱ」
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	政策金融論	後期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	政策金融論－教員	3年	授業中もしくは終了後に教室にて受け付けます。	

学びの準備	ねらい 産業の振興や中小企業の育成等、政府が特定の政策目的を達成するために、政策金融機関を通じて財政資金の供給を行う「政策金融」の機能を理解し、沖縄振興における政策課題に対応した「政策金融」の役割について学ぶ。	メッセージ 沖縄公庫の現役金融マンが講義を担当します。沖縄の実体経済や金融に関する最近の動向についても、トピックスとして適宜解説します。
	到達目標 ・財政投融资及び政策金融の機能を理解できる。 ・沖縄の実体経済・金融構造を把握できる。 ・沖縄振興策における政策金融の役割を理解できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスをよく読むこと
	2	市場経済と政府の役割	授業で配布した資料を復習
	3	財政投融资の仕組みと特徴	参考資料①
	4	財政投融资の規模の変遷と財投改革	同上
	5	沖縄の実体経済	参考資料②
	6	沖縄の金融構造	同上
	7	沖縄公庫の設立経緯と総合政策金融機能	参考資料③
	8	沖縄振興政策の課題の変化と公庫の対応	参考資料③④
9	観光産業振興と沖縄公庫	参考資料③	
10	創業・ベンチャー支援と沖縄公庫	同上	
11	離島振興・地域活性化と沖縄公庫	同上	
12	駐留軍用地跡地利用と沖縄公庫	同上	
13	政策金融評価の概要	同上	
14	政策金融改革と沖縄公庫	同上	
15	まとめ	授業で配布した資料を復習	
16	レポート提出	授業で配布した資料を復習	
	テキスト・参考文献・資料など ・テキストは使用せず、毎回講師が作成したレジュメを配布する。 ・参考資料（講義時に以下の資料を配布） ①「財政投融资レポート2018」（財務省刊） ②「沖縄経済ハンドブック2018年度版」（沖縄公庫刊） ③「Report2018」（沖縄公庫ディスクロージャー誌） ④「沖縄21世紀ビジョン 基本計画と実施計画」（沖縄県刊）		
	学びの手立て ・履修の心構え 日頃からメディアの金融・経済関連情報に意識を向けて接してもらいたい。		
	評価 平常点40%（出席状況に質問や発言を適宜加点します） レポート60%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「関連科目」金融論ⅠⅡ、財政学ⅠⅡ、沖縄経済論ⅠⅡ、経済政策総論ⅠⅡ
-------	---

※ポリシーとの関連性 カリキュラムポリシーにおける「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、ITの可能性と社会課題について考えます

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	ハイブリッド型人材育成特別講義	期別	曜日・時限	単位
	担当者	FROGS/Ryukyufrogs 畑中ひらり	後期	金 3	2
			対象年次	授業に関する問い合わせ	
			1年	h. hatanaka (_AT_)frogs-corp. jp * (_AT_)の文字を@に置き換えてください。	

学びの準備	ねらい	様々な産業分野がテクノロジーの発展に伴い、変化やイノベーションを求められている。未来を生きる人材にとって、テクノロジーは欠かせないアイテムである。最初から難しい技術を学ぶのではなく、ワークショップや講座の中からテクノロジーの必要性や可能性に気づき、興味を持ってもらうことをねらいとしています。	メッセージ	本講義では情報をインプットするだけでなく、体感型のワークショップを取り入れ、実際に” やってみる” ことを重要視しています。未来を考え、楽しみながら自分たちでよりよい未来を創る、ということを実感してもらいたいと考えています。
	到達目標	1) 既存産業の課題と向き合い、テクノロジーを掛け合わせることで課題解決を行うワークショップを通じて、日常に流されない問題意識を持つ自立人材を育む。 2) テクノロジーの可能性に気づくことで、技術習得に興味を湧かす。 3) 文系・理系の枠を超えた、ハイブリッド人材を育む。		

学びの準備	到達目標	1) 既存産業の課題と向き合い、テクノロジーを掛け合わせることで課題解決を行うワークショップを通じて、日常に流されない問題意識を持つ自立人材を育む。 2) テクノロジーの可能性に気づくことで、技術習得に興味を湧かす。 3) 文系・理系の枠を超えた、ハイブリッド人材を育む。		
-------	------	--	--	--

学びの実践	学びのヒント	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容	
	1	オリエンテーション	本時の内容整理・振り返り	
	2	Ryukyufrogs卒業生キャリア講話「キャリア選択の多様性～選択と決断～」	本時の内容整理・振り返り	
	3	〇〇×テクノロジーの事例紹介と課題解決ワークショップ	本時の内容整理・振り返り	
	4	課題発表とチームビルディング（ワークショップ）	本時の内容整理・振り返り	
	5	デザイン思考ワークショップ	本時の内容整理・振り返り	
	6	チームで新サービスを考える①（ワークショップ）	本時の内容整理・振り返り	
	7	チームで新サービスを考える②（ワークショップ）	本時の内容整理・振り返り	
	8	中間プレゼンテーション	本時の内容整理・振り返り	
	9	プロトタイプを作るには（講義とワークショップ）	本時の内容整理・振り返り	
	10	フィールドワークを実践するには（講義とワークショップ）	本時の内容整理・振り返り	
	11	チームでサービスを創る①（ワークショップ）	本時の内容整理・振り返り	
	12	プレゼンテーションの基礎を学ぶ	本時の内容整理・振り返り	
	13	チームでサービスを創る②（ワークショップ）	本時の内容整理・振り返り	
	14	チームでサービスを創る③（ワークショップ）	本時の内容整理・振り返り	
	15	チームでサービスを創る④（ワークショップ）	本時の内容整理・振り返り	
16	最終成果報告会			

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など	テキストはありませんが、スマートフォンやノートPC、タブレットなどを所有している人は持参してください。
-------	----------------	---

学びの実践	学びの手立て	インプットとアウトプットを繰り返しながら学ぶスタイルです。能動的かつ積極的に参加できる学生を希望します。何か今の自分を変えたい、何か自分で作って世の中を良くしたい、と思っている方はぜひご参加ください。定員は50名とし、登録希望者多数の場合には事前に選考を行います。初回講義時には必ず出席するようにしてください。
-------	--------	---

学びの実践	評価	最終成果報告のクオリティ(80%)と全講座を通じ受講時の言動など(20%)を評価します。総得点の90%以上は秀、80%以上は優、70%以上は良、60%以上は可とし、60%未満は不可とします。
-------	----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目	創ることの楽しみに気づいた学生には、県内外で行われている勉強会やイベント情報を提供し、参加を促します。
-------	-------------	---

※ポリシーとの関連性 産業及び経済に関する諸課題に対する問題発見力・分析力を高め、
解決力・創造力を養成します。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の航空事業と地域振興	前期	金 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	一名 渡山 秋彦	1年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>沖縄県における航空産業は地理的特性から今後の発展の可能性が目される中、観光客の入域が7年連続で記録更新、国際航空貨物基地として国際物流の拠点づくりや、航空機整備事業の立ち上げなどを中心とした地域振興策が進捗しており、非常に重要な位置づけとなっている。航空産業の学びを通しグローバル・地域の視点で地方創生・地域の活性化を担う人財の育成を目指します。</p>	<p>航空産業の理解を深めつつ地方創生・地域の活性化を担う人財の育成をめざして、沖縄に在する日本トランスオーシャン航空にて航空産業の運営に携わってきた実務経験者が寄附講座として実施するものです。</p>
到達目標	<p>1) 航空産業の基礎的な知識を習得し理解できる (専門性) 2) 航空産業による地域振興をグローバル・地域の視点から捉えられる (地域・国際性) 3) 沖縄における航空による地域振興策や必要な課題を発見し、振興や課題解決に向けて提案をすることができる (コミュニケーション・スキル、問題解決力)</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション、イントロダクション	
2	航空事業の現状	WEB公開の授業資料にて学習。	
3	那覇空港の現状と課題	WEB公開の授業資料にて学習。	
4	離島空港を取り巻く現状と課題、空港運営体制	WEB公開の授業資料にて学習。	
5	離島交通政策	WEB公開の授業資料にて学習。	
6	沖縄の観光戦略	WEB公開の授業資料にて学習。	
7	沖縄の観光インフラ	WEB公開の授業資料にて学習。	
8	航空物流と沖縄	WEB公開の授業資料にて学習。	
9	運航のしくみ (JTA運航乗務員、運航管理者による講義)	WEB公開の授業資料にて学習。	
10	航空の保安・サービス (JTA客室乗務員、JALSAOグランドスタッフによる講義)	WEB公開の授業資料にて学習。	
11	整備事業の展開、航空整備 (JTA航空整備士による講義)	WEB公開の授業資料にて学習。	
12	運賃施策、航空会社を支える IT (JTA運賃担当者、JTIC IT開発者)	WEB公開の授業資料にて学習。	
13	那覇空港見学 (航空事業の現状把握)	WEB公開の授業資料にて学習。	
14	那覇空港見学 (航空事業の現状把握)	WEB公開の授業資料にて学習。	
15	うちなへの翼・JTAの経営戦略&まとめ	WEB公開の授業資料にて学習。	
16	期末試験		
	テキスト・参考文献・資料など	<p>毎回、パワーポイント資料による講座を進行する。学生がインターネットにより閲覧可能な様にし、振り返りが行える様にする。</p> <p>日本トランスオーシャン航空 (JTA) ホームページ https://jta-okinawa.com/ 琉球エアークommunicuter (RAC) ホームページ https://rac-okinawa.com/ その他、必要に応じて紹介する。</p>	
	学びの手立て	<p>①遅刻、早退、授業中の私語、携帯電話の使用はやめて下さい。 ②講義で使用する授業資料等はWeb(沖国大ポータル)で共有しますので、予習・復習に活用して下さい。</p>	
	評価	<p>「評価方法・割合」 「期末試験35%、レポート60% (12回)、那覇空港見学レポート5% (1回)」 ※ただし、6回以上欠席した者は試験を受けることはできません。</p>	

学びの継続	次のステージ・関連科目 (関連科目) グローバル観光ビジネス、観光マーケティング
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の航空事業と地域振興	後期	金 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	一名 渡山 秋彦	1年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>沖縄県における航空産業は地理的特性から今後の発展の可能性が目される中、観光客の入域が7年連続で記録更新、国際航空貨物基地として国際物流の拠点づくりや、航空機整備事業の立ち上げなどを中心とした地域振興策が進捗しており、非常に重要な位置づけとなっている。航空産業の学びを通しグローバル・地域の視点で地方創生・地域の活性化を担う人財の育成を目指します。</p>	<p>航空産業の理解を深めつつ地方創生・地域の活性化を担う人財の育成をめざして、沖縄に在る日本トランスオーシャン航空にて航空産業の運営に携わってきた実務経験者が寄付講座として実施するものです。</p>
到達目標	<p>1) 航空産業の基礎的な知識を習得し理解できる (専門性) 2) 航空産業による地域振興をグローバル・地域の視点から捉えられる (地域・国際性) 3) 沖縄における航空による地域振興策や必要な課題を発見し、振興や課題解決に向けて提案をすることができる (コミュニケーション・スキル、問題解決力)</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション、イントロダクション	
2	航空事業の現状	WEB公開の授業資料にて学習	
3	那覇空港の現状と課題	WEB公開の授業資料にて学習	
4	離島空港を取り巻く現状と課題、空港運営体制	WEB公開の授業資料にて学習	
5	離島交通政策	WEB公開の授業資料にて学習	
6	沖縄の観光戦略	WEB公開の授業資料にて学習	
7	沖縄の観光インフラ	WEB公開の授業資料にて学習	
8	航空物流と沖縄	WEB公開の授業資料にて学習	
9	運航のしくみ (JTA運航乗務員、運航管理者による講義)	WEB公開の授業資料にて学習	
10	航空の保安・サービス (JTA客室乗務員、JALSAOグランドスタッフによる講義)	WEB公開の授業資料にて学習	
11	整備事業の展開、航空整備 (JTA航空整備士による講義)	WEB公開の授業資料にて学習	
12	運賃施策、航空会社を支える IT (JTA運賃担当者、JTIC IT開発者)	WEB公開の授業資料にて学習	
13	那覇空港見学 (航空事業の現状把握)	WEB公開の授業資料にて学習	
14	那覇空港見学 (航空事業の現状把握)	WEB公開の授業資料にて学習	
15	うちなへの翼・JTAの経営戦略&まとめ	WEB公開の授業資料にて学習	
16	期末試験		
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>毎回、パワーポイント資料による講座を進行する。学生がインターネットにより閲覧可能な様にし、振り返りが行える様にす</p> <p>る。</p> <p>日本トランスオーシャン航空 (JTA) ホームページ https://jta-okinawa.com/</p> <p>琉球エアークommunicuter (RAC) ホームページ https://rac-okinawa.com/</p> <p>その他、必要に応じて紹介する。</p>		
	<p>学びの手立て</p> <p>①遅刻、早退、授業中の私語、携帯電話の使用はやめて下さい。</p> <p>②講義で使用使用する授業資料等はWeb(沖国大ポータル)で共有しますので、予習・復習に活用して下さい。</p>		
	<p>評価</p> <p>「評価方法・割合」</p> <p>「期末試験35%、レポート60% (12回)、那覇空港見学レポート5% (1回)」</p> <p>※ただし、6回以上欠席した者は試験を受けることはできません。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>(関連科目) グローバル観光ビジネス、観光マーケティング</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄ジャーナリズム論	後期	金 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	與那原良彦、安里努、山城紀子、崎濱秀光、福元大輔、大野亨恭、具志堅学、下地広也、石川亮太、島袋晋作、黒島美奈子、與那覇里子、新垣綾子、城間陽介、阿部岳	1年	times-okikoku@okinawatimes.co.jp(講師共用)、098(860)3538	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>沖縄の現在社会を知る上で必須の時事問題を中心に、沖縄ジャーナリズムの歩み、米軍基地問題、沖縄戦などを現役のデスク、記者、論説委員が解説する。報道を通して、ニュースの読み方、現代沖縄の問題を多様な視点から考える姿勢を学ぶ。</p>	<p>沖縄タイムスの一線で活躍する記者、日々の紙面づくりに取り組むデスクが、米軍基地問題から社会福祉まで幅広い視点で現代沖縄を解説します。ニュース一般の読み解き方も紹介します。</p>
到達目標	<p>報道の現場の一線で活躍する記者の解説を通して、現代沖縄の社会を知るため、ニュースがつくりだされる過程から、その情報の読み解き方までを学ぶ。多様な視点から考える態度を習得する。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義内容紹介と登録(与那原良彦)	新聞を毎日読むこと
	2	N I Eで学ぶ新聞の読み方(安里努)	新聞を毎日読むこと
	3	社説で読み解く沖縄問題(崎濱秀光)	新聞を毎日読むこと
	4	沖縄戦と戦争犠牲としての「福祉」(山城紀子)	新聞を毎日読むこと
	5	衆院3区補選と参院選の裏側(大野亨恭)	新聞を毎日読むこと
	6	基地問題の現在と県政の行方(福元大輔)	新聞を毎日読むこと
	7	好調沖縄経済の実態と沖縄企業の可能性(島袋晋作)	新聞を毎日読むこと
8	事件から見える沖縄社会(城間陽介)	新聞を毎日読むこと	
9	米軍基地問題と報道(阿部岳)	新聞を毎日読むこと	
10	地方報道の醍醐味(石川亮太)	新聞を毎日読むこと	
11	沖縄戦を伝え続ける(新垣綾子)	新聞を毎日読むこと	
12	事件はいかに報道されるか(山城響)	新聞を毎日読むこと	
13	シャッターチャンスをつかむ(下地広也)	新聞を毎日読むこと	
14	心をつかむ整理術(具志堅学)	新聞を毎日読むこと	
15	新聞社のマイノリティー(黒島美奈子)	新聞を毎日読むこと	
16	学期末テスト	新聞を毎日読むこと	
テキスト・参考文献・資料など 適宜レジュメを配布する			
学びの手立て	<p>講義では時事問題に毎回言及します。そのため事前の1週間の新聞を読んで講義に参加することが求められます。ネットニュースの形ではなく、紙の新聞を1面から社会面までを通して読む習慣を身につけて下さい。朝刊には新書1冊分の活字が記載されています。その中から必要なニュースを自在に読むことが出来る力を身につけることは、社会人としても必要なスキルです。特に地域紙は地域の問題に密着し、政治、経済、社会と学生のみなさんが住んでいる地域の視点からニュースを発信します。地域紙と全国紙を読むことを、大学生のころから心掛けてほしいと思います。</p>		
評価	参加態度50% 論文50%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 社会・平和領域の選択科目
-------	-----------------------------